

圏域の大型水鳥類に関するトピック

市報

うんなん

8

2019
No.177



コウノトリの愛称決定 (2ページに記事掲載)

©雲南市教育委員会

- 2ページ コウノトリの愛称決定
- 4ページ 幼児教育・保育などの無償化
- 8ページ うんなん日和
- 13ページ 雲南市職員採用試験
- 16ページ 病院だより
- 20ページ わが家のHOPE
- 22ページ 市役所からのお知らせ ほか
- 36ページ イベント情報 ほか



おしごと体験イベント「うん？なに屋？」(8ページに記事掲載)

愛称が決定しました

今年も雲南市でコウノトリのヒナが4羽誕生しました。このヒナの愛称を2羽は市民の皆さんから募集し、残る2羽は巣塔がある西小学校児童が考えました。市民の皆さんからは107件の応募がありました。多くの皆さんにご応募いただき、ありがとうございました。

6月20日に開催した愛称選考委員会では、西小学校児童の4人の代表から愛称の説明を受けた後、親しみやすさ、呼びやすさなどを考慮して次のとおり決定しました。

今後ともコウノトリと共生するまちづくりに協力をお願いします。

愛 称

個体番号	愛 称	足環の色	性別	応募者（名付け親）	愛称の理由
J0231	れいな	左 上 黄 右 上 黄 下 黄 緑	メス	いまおか 今岡 玲七さん・川島 あゆりさん たに谷 谷戸 仁子さん・藤原 愛生さん よしぎ 吉木 雪子さん	「令和」のコウノトリ。新時代の代表として羽ばたいてほしい。れいわの「れい」とうんなんの「な」。 など
J0233	ほのか	左 上 黄 右 上 黄 下 青 緑	メス	匿名	田んぼで餌を採っているコウノトリの姿を見ると緑の中でほのぼのと美しくかわいらしい。
J0234	いぶき	左 上 黄 右 上 黄 下 緑 緑	オス	西小学校児童	春の息吹のイメージ。生き生きと力強く生きてほしい。次の春、また、この土地で新しい命が芽吹いてほしいという願いを込めて。
J0235	あおば	左 上 赤 右 上 黄 下 黒 緑	メス	西小学校児童	蒼葉。蒼々とした空を自由に飛び回り、豊かな自然の中で青葉のように力強く元気に育ってほしいという願いを込めて。

今年のヒナたちの観察記録

日 付	内 容
2月12日	げんきくんとボンズ二が、西小学校の人工巣塔で造巣を開始する
3月4日	初卵推定日
3月6日	本格的抱卵開始日
4月8日	親鳥の「餌の吐出し」と「食べ戻し」を確認
4月24日	ヒナの羽数（4羽）が確定
5月20日	足環装着
5月28日	ヒナの雌雄判明
6月13日	J0234（オス）の巣立ちを確認
6月18日	J0231（メス）、J0233（メス）、J0235（メス）の巣立ちを確認



孵化

© 雲南市教育委員会



巣立ち



© 雲南市教育委員会

足環装着



愛称選考委員会



© 雲南市教育委員会

あぜに立つ J0234 いぶき

© 雲南市教育委員会

「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり」について

雲南市では平成31年3月に「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン」を策定しました。このビジョンでは、市内外の共感と協力を得ながらコウノトリが継続的に営巣できる自然豊かな環境づくりに取り組み、コウノトリによってもたらされる恵みを活用して、雲南市総合計画に定めるまちづくりの基本理念「生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」を実現していくとともに、雲南市のブランド価値の向上を図ることとしています。

このビジョンを着実に具現化していくため、今年度中に「アクションプラン」を策定する予定です。ビジョン策定時と同様、市民、専門家および関係団体等の皆さんの意見をいただく機会を設けることとしています。

8月9日開催する学習会においても皆さんの意見をいただく予定としています。ぜひ参加ください。

「コウノトリと共生するまちづくり学習会」開催

テーマ 「生命を育む田んぼについて考える」

とき 8月9日（金）14:00～16:00

ところ 木次経済文化会館チェリヴァホール3階 大会議室

内容 ①講話 NPO法人「田んぼ」 理事長 船橋玲二さん

各地のNPOや研究者と協力しながら、生きものを活かした持続的な地域づくりに取り組まれています。

②リレートーク 島根県技術士会 ほか

③アクションプランへのアイデア出し

参加料 無料 ※要申込

申し込み・問い合わせ先

地域振興課 ☎ 0854-40-1013 FAX 0854-40-1019

☒ chiikishinkou@city.unnan.shimane.jp

申し込みの際は、出席者名、電話番号をお知らせください。

トキの一般公開の状況について

1 公開概要

公開期間 令和元年7月1日（月）～12月28日（土）
 公開時間 10:00～16:00(7月～9月)、10:00～15:00(10月～12月)
 休館日 毎週火曜日（但し7月2日は開館）、11月24日（日）臨時休館
 開館日数 計155日（平日98日、土日祝日57日）
 公開トキ オス4羽
 幼鳥展示 4羽 展示期間 9月11日（水）～10月30日（水）

2 来場者数等

来場者数 計16,634人 最大526人（9/16祝）、最少4人（12/4金）
 平均 平日 72人（7,013人/98日）
 土日祝日 169人（9,621人/57日）

月別入場者

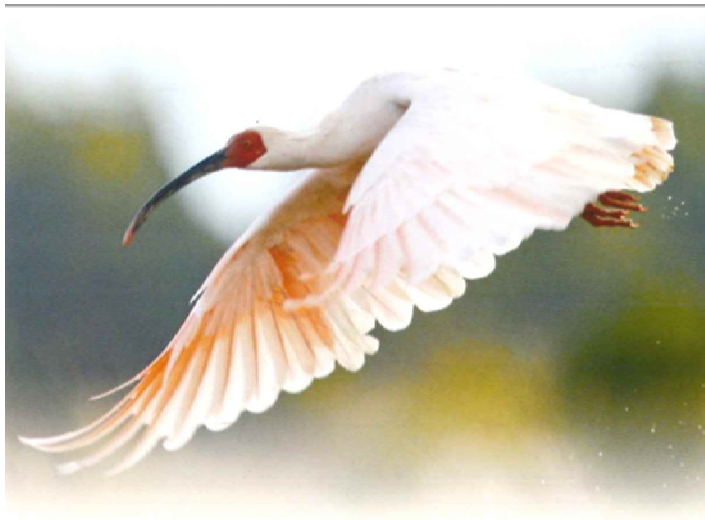
	日数	来場者数	平均		日数	来場者数	平均
7月	27日	3,814人	141人	10月	26日	3,326人	128人
8月	27日	2,033人	75人	11月	25日	2,752人	110人
9月	26日	3,491人	134人	12月	24日	1,218人	51人
				計	155日	16,634人	107人



出雲市トキ公開施設



施設で育てられているトキ（2018年12月撮影）



写真提供：環境省

出雲市トキ 一般公開記念シンポジウム

「トキの繁殖と野生復帰を進めていくために」



ミコトッキー

日時 令和元年 **6月30日** 12:50~15:00
会場 **朱鷺会館** 島根県出雲市西新町2丁目2456-4
 TEL.0853-24-9857 ***定員300人 参加無料**

※15:00~シンポジウム終了後、参加者による公開施設見学があります。

学名「ニッポニア・ニッポン」。もっとも日本らしい鳥として紹介された「トキ」が日本の自然から姿を消したのは、昭和56年1月21日。この年の6月、中国で絶滅していたと言われていたトキが発見されました。日本でも、このトキの繁殖を進めた結果、平成20年9月25日、佐渡で放鳥が行われ、27年ぶりに日本の空にトキが舞いあがりました。

それから10年、今、佐渡の野生下には300羽を超えるトキが暮らしています。

7月1日から、出雲市でもトキの一般公開が始まります。これを記念して、トキの繁殖・野生復帰に尽力された方々や団体の方をお招きし、これまでの取り組み・これからの方向性についてお話していただきます。



小宮 輝之氏

(元恩賜上野動物園園長、元(社)日本動物園水族館協会会長)

1947年、東京・神田生まれ。1972年に多摩動物公園の飼育係として40年間の動物園人生をスタート。「ミスター・動物園」と呼ばれ、2004年から2011年まで上野動物園史上唯一の「飼育係出身」園長を務めた。昨今は、動物園・水族館めぐりの傍ら、動物の足跡を採集する「足拓墨師」として活躍。「あしあと動物園」など著書多数。

パネリスト

杉田 平三氏
(多摩動物公園飼育展示課)

三浦 基裕氏
(佐渡市長)

長岡 秀人氏
(出雲市長)

環境省
国土交通省



出雲市トキ公開施設 7月1日(日)グランドオープン!

公開期間 2019.7/1▶2019.12/28 **公開時間** 7~9月/10:00~16:00・10~12月/10:00~15:00 ●休館日/火曜日

お問い合わせ 出雲市トキ分散飼育センター TEL/FAX.0853-20-1350 Mail.toki-c@city.izumo.shimane.jp